歌舞畫帖

七

へ 5
1217
7

へ5
1217
(3)

宮城県図書館

園芸　　宮市

源氏行　　百子舎之作

秋の夕　　変化
折ふし月小さむ　　東北
葉しおくむ菓の山類を山ほくか
いろもなきうりの小猫や　　了定
ちよ風よりを吹きて　　酒者
夏の光まの町の元月うり　　寿声

漏さじと思ふ心の一ふしに
ほんよりんよりやのをとまりよ　素俊
あの雲てらすて時雨　時雨
拙聖ゆるしも　蕉雪　二の冬
律儀なる仏ふるの一食い　村里
えらん事成婦女房　支柱　私丈
訪ねてさし出す磯の名よりよ　友柳
そよ夕まてて虹の横さよ　二の庵

ぬらさじと出る雨の法　雨蕉
新茶有る　ゆんと豊かむ　一庵
むかしも尖りそもさく　白風
器よ深る　深解の水　を一
二
引捨る注連の古引き年の侍　古松
深雪ゆるんさ　月雄
化粧湯の下茂林　焚く訪ふ云　春恋
翁ふ深てよんお祝日　松波

金一くもうふ深雪れ家山　文里
二階身傳よ青まくれまく　巨松
段仕の後き頼れ出ら如てて　雲之
ゆ多ゆ山なり伊豆とお梅を　谷水
同じ弱ふうき高く沢りなり　正里
徒利と中ふ徐岩ー金ふ　素ふ
四の多ふ月も三年と浅ゆう　方儀
ゆ浅ゆまく松り校の多　水葉

ら
梅樹の墳城き四ちと称て亟　孫松
ゆうふこうこう梅のきせるを　多松
八当ら十方多ら高くくく　泉吉
海り梅の山れて花り　山吾
遠ふの多を咲ふきまちまき　美茶
久しふりとゞれ雲多　弦豊
き一現く月の四りよ明り　文翊
歳茶して高ふ茶多の機　孤芳

[illegible]十一文字[illegible]種　この帝
[illegible]面を[illegible]梅も遅　屋　素石
[illegible]ふ[illegible]を[illegible]砂[illegible]　深橋
市へ[illegible]も[illegible]荷の[illegible]　永諧
三
[illegible]年や初[illegible]を[illegible]　夏齋
書生[illegible]の深氣咲く　渕鶯
[illegible]結の[illegible]弾[illegible]さめ　苦月
[illegible]せの[illegible]今[illegible]　この下

花くゝの遠ゝ夕[illegible]の[illegible]まゝ　要望
山入ゝ行と[illegible]の氣の[illegible]　むと
屋[illegible]も[illegible]ゝ[illegible]遠ゝ　二耕
一[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　茂柏
[illegible]ゝ[illegible]長柄[illegible]　武淡
夏中　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　むと境
[illegible]夏も[illegible]月の[illegible]　和風
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　この中

うすきよ沼のまもりは紅葉　嶺も
悟りの角よりはなぬ云沢　松寿
ものうきは業硫黄なて　惟盛
何時ふるん　清の灰よ　如水
手等よ世もゆるやかなる　茂枝
秋も不易ふ家　野よ雲　智風

長二八白表

芦咲やうれう稜物よめよ　長岡　智風

沈もも　物を用も流生　変化
秋の来て年来宮の云一物　之計
何ふ来ん来　今ふ先の　谷水
雲成用て初せて　投て光り　嶺も
命も　雪藻よ　嘯く　秋日　炭膏
久ふ　何よ来の雲山生成り　寿声
ゆとうなる代ふ時く　体敷　玉境

長二八白表

世代經し初より新たに成し歌にて水

月よう〳〵傾き淋し　秋　史記

彼岸と八幡の祭よりも雲よりて　巨松

綿よりや傍の多い哉　源氏

を除き　お妻　月　白く

集おくふると思年清き　文車

ちら〳〵と夢ふるり年の市　月照

いとふむ　年よ花ちかる　古松

其四八白書　少一舍要里

まれ一ノ年世の秋庵よ芋の声

月もあるよ清し遠山　史記

ほく移んと思せハ雲よ机浄くて　玉山

住ふハいふ　仲かけて　龍象

移ぬ火の住ふ〳〵の家も淋しく　星松

いりよ雲の月ふ　紅　月　金生

淋　秋の樂　秋　思　雲ふ　月　安戸

後言徽中　仙味の蒔れ　成麦

芸五八白表

[illegible]　紀伊国文里

舎り弦し　月の行里　変化

栗板よむり　の系統かりられて　女英

きり[illegible]　神　守りの　神　心れ

[illegible]　波も　巌よ　砕りて　麦む

に[illegible]　て　吾　歩て　酒　祥安

[illegible]　紙元の部分の[illegible]　村里

[illegible]　吾の細波　松寿

芸六八白表

[illegible]　芸青園和風

[illegible]　月よ　明る　変化

[illegible]の[illegible]　吾貢

[illegible]　[illegible]　手版

[illegible]　[illegible]　文柳

[illegible]ハおしろうわれ　秀房
水辺の切ちさまれる　行も咲　有清
烏帽子成枝ちらは咲もゆるる　正里

其七八月表

時雨[illegible]咲ちく咲しほ沢のれ　其一
もちのうち[illegible]月　文化
金剛寺の秋もすのりれて　この矢
金　行ふ[illegible]も　ぬ[illegible]情　丁中

行事もしくれの　雲を　永濤
京とも表ふ矢流や小京の　有松
作吹味も云京　清り虚空　孤芳
家ふ　源ふ青[illegible]れ　橋く　氏濤

其八三ツ物　淀月名　深橋

園[illegible]ふ[illegible]人[illegible]ふ地　菜小
[illegible]沢　[illegible]月　文化
[illegible]　この定

長九ニツ物

四季園 路考

竹ゝ枝ゆゝ弱ゝの雪ふる音

月も吹添く月の山深　文化

ものゝふ般若切徳分入て　孫雲

名源

虫の音ふせもの音や秋　可定

めさ枝ゝ笠ふ三月雨ゝ　古松

宮川の松よりかるや秋の雨　孫松

雨の山中歳て下雨ふ音りかく　寿声

松ゝ枝よ琴の音ゝ和ゝ　山

琴のゝてゝ音ゝ雨ゝ　景品

きゝてゝ音ゝ雨ゝ柳ゝ　来後

名月や年ふ雨ふ庵の声　月想

雨の松長谷と雨ふ　和友

ゆゝ雨と音ゝ雨ゝ時ゝ雨ゝ　雨寿

名月や雨ゝ雨ゝ琴の雨　源楽

謂ふ所の小社の寂やかんこう　路考
鶏ふもちるも悟めぬ夜の吉吹哉　可矣
布晒を干すとて又くりの雲の岩　貴里
時雨みを帰して宮ゐ所岩小　巨松
山人い寒風ふ〳〵廉の声　祖也
冊の縁ちゆれて松ふ小蕎ふ　貴志
風や里〳〵吹ものを積の声　松雨
ふくふ寒ふ蓉又もりは北西　吳青

秋萩や寄い寒ても寒ん　素仙
秋の雲や消〳〵ふ出て又ふる　雨松
初冬の雨のとちふとまた田小　この脱
明方戸我皆と行ぬ時ふ　糸吉
茅の戸ゑ風ふ家原や紙ふの声　谷如
山上ふ我鶏〳〵て又ふ〳〵鳴り和茅　此渓
明ちもちるもふふ〳〵〳〵　松のも　このト
負隙の蓉みも工夫ゑ沼茅ふ　二耕

芝うゑて　秋のむ　玉境
蹄て　香のきをうけや　屋の梅　蔵梅
張ふ　焼ふ　皆戸　蕨　正望
筆まも　せぬ　屋の　蔵　柴ふ　松波
きぬ　やふ　蔵　萩の　赤　女　夜柳
小夜　夏て　蛍　納涼　小　夏扇
秋の　萩や　きれも　ふ　蔵　、　、
高　ぬ　ちり　きの　ふ　蔵　小　ち

鈴　高　ど　遠　く　蛙　ふ　ふ　風　楷
初　高　や　化　物　も　蔵　ふ　蛍　の　光　洲　雪
川　杉　や　双　紙　ハ　蔵　よ　寺　子　供　一　扇
蛙　ふ　夕　ど　小　蔵　て　ん　は　ふ　芦　月
吹　う　て　祇　蛙　ふ　ふ　し　蛙　の　風　高　貞
待　よ　高　て　涼　ん　ハ　ふ　夏　ん　ハ　ふ　星　北　歩　長　然
夫　く　ふ　り　ち　ふ　も　夜　ど　の　葉　山　よ　ふ　来　ん
鈴　ん　や　化　物　し　て　ち　る　ど　ち　ち　ち　ち　孩　き

雨上がりの夕暮れ　玉菊
夕顔や虫の鳴く声　宝悦
世の中はまるで枯味噌　蜂玉
夕ゆふ雲の水無瀬の郡　孤雲
雲雨や欠けの移り行く月　如水
むし干や対し火鉢の客　一中
森の月移るまで　時雨ふる　永信
朝雪やまつの笠の雪ぬる　如英

深ふして秋成ればまた紫ふ　文里
網の目の月に残る日永し　一雲
紫もまた成遠て出る星海老　曽蓮
夕涼ふ月ぬるる中の玉　和風
鼓打や涼せて物の情書　芳風
日の永し法ふ咲てむ本樣　文朔
清るまもゆるしの中ぬるる　白風
横坂の猫ぬるる月の影　友校

[illegible] 言の和　之計

日訓　ニッ物

蓼折て葉屋下[illegible]中往　瓢　月秀亭　桃里

馬の罪さる　月の夕来　文化

[illegible]くの[illegible]も咲やすす　[illegible]宵

名塚

[illegible]ふ[illegible]り　瓢　[illegible]　長宵

菜のとや[illegible]　桃里

永よにや[illegible]の[illegible]ひけ一ト　広東　坂人　長秀

日訓

短冊行一枝

夜ぶりの神ふ[illegible]　吉三郎　宜耕

[illegible]松と[illegible]　月　文化

来[illegible]て貢の[illegible]て　中和

鶏鳴　[illegible]　昭の[illegible]　打林

[illegible]移て　[illegible]て市も立　伯[illegible]

掃よりしく後雪の初わか　壺江
いくらとは舌も洗へて涼ません　古友
佛も禅に神も禅の世　哥二
味能も清して安宅の素顔　虎嘯
何事同しきく踊や小唄の　法汀
桂枝の菓子参宮と僧の歩　万里
月題夏雁に折も来よ日　景
表二之物

青露に指と見し秋の暮　中和
暮れ月にもいさゝか谷　青　変化
くらきことはれ業も菊の縁にして　巨耕
名残
名月や出る際から入際も　中和
州の出や子も背戸下りて濡れ出　灯狂
空気のもつれて難き稲の香　古友
康嘆や灯火ほそき衣禅堂　紹偉

[illegible]て月みる二度の名残哉　万里
引綿よりの[illegible]て[illegible]ようなる　伏竹
[illegible]と[illegible]月見[illegible]紅葉[illegible]　雪二
[illegible]やうに[illegible]描の[illegible]て迷　虎嵐
[illegible]のむや[illegible]秋[illegible]深　垂仙
[illegible]り紙さ留主の戸や[illegible]　青玉坊

月詠八句表　桜川宗匠

[illegible]さ[illegible]実[illegible]わ果秋の[illegible]　桜川宗匠

[illegible]月の垂先　文龍
[illegible]の立[illegible]むかし[illegible]月の[illegible]て　垂仙
むさ[illegible]此[illegible]の[illegible]よ遠　一朝
投[illegible]れ[illegible]れ　牧子
肩[illegible]て[illegible]　重淵
[illegible]蕭[illegible]小猫も足[illegible]　雄北
淵月の[illegible]むよ　吹上
[illegible]月　玉月

さ節一味の魁よりれ一系ふ　一紙
岩の戸戸さく移と叩く水鶏小　蓋清
屋代中くも　蔵りて　猫　の邸　子渓
ふよわまる　源氏の老信や　茅屋　優氏
牛蒡の　訓よ　中　茅　屋　梅月園

同　訓　十白表

去　敷ふ　つ　て　咲　き　し　光　茅　藍雲舎　藍雲

月　よ　地　し　の　書　り　き　る　る　吏　光

楽　う　は　社　暫　い　歌　紙　加　え　て　竜　脳
表　き　沢　ふ　内　流　の　賛　菱　線
情　よ　り　よ　立　の　中　い　花　ち　川
的　も　咲　よ　非　ま　ち　分　清　此　菜　月
き　れ　ま　ま　る　ち　ま　る　ま　る　ま　る　起　清　有
ま　清　る　く　ま　て　迫　る　吸　口
豊　ま　る　貢　の　言　も　咲　稚　り
枝　の　下　枝　よ　鶏　ち　茅　屋　よ　茅　屋

名残

上戸半ばよりなりて雪ふる　歌仙　芝雪

雪の深さ三尺ばかりにぬかるて熟柿に　月

梅ゝ香や梅の花なる張屋法師　卜露

鶯の声もまさしくふやう者かなる　月矢

一つまんよ一口ばかりの酒　徐北百丸園　沢紅

夕雲や糸里遠よ牛の声　左仁

七卦や匂て梅ゝ折くさぐ　芝雪

雲もこもる空異なりさくの雪　雄峰

寒しん新月　月くもれ未の子時　竜碧

日朔　湯野

素八名　越中国　嶋戸

紅葉見やまを切て残ハ余ー

雪花沢夕月の眺　支左

彼岸ゝ高ふ彼ゝ彼ゝ彼ゝ彼ゝ彼ゝ彼ゝ　泰睦

梅ゝと雪きくきくの下紐　雄西

物うて寒さ乳房をつゝみ　物止

ひのまる冥さを七十の稚　故城

消へ切て雪と飛く雪　秋乳

豊うふ年の市此賑やう　和北

名残

竹里の京花ひしくや柿　和北

み菜漬や物ぬ人と生て　女故城

山麓のまのゝもれ雪の中　嘯帆

[illegible]　柳　柳止

[illegible]の[illegible]　秋乳

[illegible]の[illegible]　[illegible]

徳地

[illegible]　探菓宣　紅一

柳ちるや青の[illegible]　[illegible]

[illegible]　月の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　一紅

廊下 繪まぜ板の間 沈み板の間 豪井

新にの十文字口のと武州なり 芝波

雨も降まふまして霧吹 鶯雷

主侍ふて蕎麦刈入まの畑 物色

網戸付とも 松去好物 松琴

沙竹の池の名月て ちと鳴く 外雲

知にるいとかく 蚊屋 有法

くくしく祢ち神まのむくら 有濃

荒屋の代よ沸くも不さ 秋水

主角に家ふ初くふ伝ふもなり 蚊帳

以ても忘れ難しる 柳浦

人塚かくの田会ふかくあ 徒 東文

沙ふくふくを行んの屋敷 庵況

光陰の三月を信るくはるくく 豪松

絶まて法て保勢の御 祝 吐紅

ふんやと茅ま茅法をまめ信く 之涇

[illegible] 月　長北
[illegible]の[illegible]と[illegible]　[illegible]江
[illegible]や猿[illegible]の声も遠と　有梅
[illegible]の[illegible]細き　和秀
[illegible]　[illegible]　東溪

其二絶句[illegible]一部

安藤彩[illegible]

[illegible]　秋[illegible]

月も雖[illegible]の[illegible]　支北

[illegible]　文[illegible]
[illegible]　鬱[illegible]
[illegible]　一[illegible]
[illegible]八の[illegible]　[illegible]溪
[illegible]　[illegible]古
[illegible]　[illegible]英
[illegible]　[illegible]北
[illegible]　[illegible]

其三三ツ物

爽涼一九

行燈よりて時雨や秋の青

月の出遅よ山下の庵　夏九

寒りそ神祇ありて　和象

其四絵合

略の雲月夕寒淋し　雅り旅　北雪

月新涼て背負風呂炎　夏九

寒もまさ乾ふ絞まあるよ　安逸

まるて金魚の桶の虫　虎風

ゆやふ雪を行不よる埋あて　桃紅

見ぬ雪て読ん秋又坂手　鶏洞

仕立別ぬ紙衣ふ寒て婦妹　鬱牡

池の海て くん 沈 焼　長流

遠条広よ時て孤の元くと　夏海

名とかりし唐人塔　法　一安

いろ九初る春の一本て幽みり　雪楊

二

桜いく所の其光　一花

降るとみしはれての小雑雨　山雅

秋葉深に節知らず清く　和北

一さしと静へ雑に席　芦舟

月て知らせてと文鶯水　麟今

ことある待つえて砂堤り　梅雪

松蔭しくよ見ても拾ふ　志中

月の暗不門と暮清く末買居　李楚

ほゆも黄菊おしさ康毛る　梅二

ら
毎舎十し秋散揚て露みち　甚右

うち寄る糸はりうり友私あり　梅語

探手よる影月起こ春ころ源　柳之

深りし膝も柳うしの友　菊源

石源　米光

卯月て流る淺瀬や夜の月　草波

精絵やさ縁一の秋くる水の泡　盛柱

鶯の蓑毛ぬるゝや五月雨　李仙
名ゆゑ殺る信や雲仙　雪
見ぬ月ら生ぬ弱張恋　三經
後よ蔦る江湖の庵や百日紅　盧舟
淺雪や搗去りて人ぬ　虎日
吹てり見も素気ぬ抜世小　南涼
色淋さ白い淋さ四つ　の秋　物洞
名月やたゞ流る雲も抜し　雪湍

池れの庭此廣さや雲の　月雲
名月や淋さ月し四の淋　鶯柱
藤籠の主揚さ月山ら　梅二
紙子嵯や拿かり物の作業庭　松軒
氣敷や氣寒よ　むい凋む　跡　長流
吹ぬさぬ　面白し　九帰州　梅庵
七州や一瓜　ぬて　梅　ぬりき　芦舟
咲ちる水一瞬の赤火ぬ　安溪

秋の夜も切なく侍りし弥の笛を　柳之

蘆の葉の葉の背をとて其日ふる　紅一

姫の涙の雫や木下露　古人　其一

象潟の景千秋の月　仙秀

立秋

立秋の一枝流れゆきもあへず　一紅

名月や波ふみてゆく網代杭　夏英

水の流の音も流れぬ柳ふる　玉友

蓮やみもらぬ葉ふる雨　貴古

栖捨て波ふる月の影　鶴翁

ぬふ月の袖と袖ふる相一系　一玉

月の影みたまうるぬ玉水　柳南

旭ふり夕日流れ系れ　一寸

刻く二ねとかりふる系ふる　桃北

細流れて別れ下ゆくよう　文雀

象潟の花芝ふる山や夜林之　素女

之のうれ柴のね立しる留　和秀
弓葉うふんあるるふ指れ　秋子

稻北

稻毒や二家なる額と二家ふ渡　有遠
ちりてりまくの家都し秋の凡　安遠
忘ふまて自新蕎し小萩叫百　一鶴
年成おもふうしも河叫鳥　此雪
新の墨流を寺るの景さふ　雪井

名美のかをるるるるるさの秋　溪渡
山知ふ菓の火自ふ菓指の那　桃孔
掃てり沼物むるを蕨柴ふ　芳江
光へ出て女沼川孔の立さふ孔　長石
いさふ凡孔かるるる北弟て沼　麦松
新高て青ふ鳴立川芦の中　康青
柏ふの青も沒りりさの東　孔雅
湖中ふ清の青を一孔月清　梅雪

八重咲も其日まがりや雪木槿　和北

踏も高間と蓑毛ぬる宿初雨　志牛

雲中わたくうるまと雲ふきて　扇風

雲雀や人里らしく鶏の声　梅酒

朔鶏の一ッ世寄やみそこうとり　有法

雲刈もかり雲のまるもなる　麟今

蛾の国よかくらんとてちる柳　雪梅

雲隠れよ月雲を咲やゆりも　吐虹

夕顔やそ結くく遠ふて蓑一ッ　毒北

初蛍そそ二の毛刈くく鶏の郎　李憩

気てもくくるるまるて立てうふ　竹梅

梅る花糸のまるとや凡巾　故人　重江

梅雨中宴の七里の水戸り　日　永尼

伊賀地

八日表

義湊一汎要くくあ北月　百竹窓　汎紅

柳ちるよりも音よ梢先　雲杞
中日の枝葉ゆるし烏帽子着て　文鶴
松風三枝に頼みのこゑかし　菜濱
ちれもせで雨まつ柳のえんこうと　一枝
秋も深う明ちる月やに松　素鳥
羽音抛切しても芭蕉の仁　三杞
名かしぶも涼しさの須广　青蛾
名塚

蒼く延る夏ぞ如しのむ　文鶴
諸ともめる夜や維子の声　井八隠 菜濱
入てえ川入る音し合せ月　き杞
うしろ夜や桔梗見て鶉の声　廿 奈杞
啼くとや秋や家むれまちる一ㄏ　一枝
雲離く比しれ枝揚る氣ら　青蛾
鳩の国も仮そくらる寄せ舟　素鳥
夕暮せ梢や音し嗜かすす　菊田新町 東和

桜ゑ例ぬ名の屋さ〜ゝ和のむ　以紅

石田未良連

短冊ゑ例一折

拾ゑ体ゑ弱も遠し〜数ゑ　清〜舎　行好

蕎も其の芯ゑ拾ゑ色の庵　変化

きゆ〜の山ゑ例出よゑ例ゑ俺ゑて　赤洲

ゑりより鋪も之後　赤夕

朝ゑ新も拾ゑ芋の月　如繁

萩ゑ垂ゑ芋萩よゑく嘉　脱白

拾ゑ例ゑ仏い例ゑり乳成ゑし　里れ

三十一文字ゑ例ゑ清ゑ　如色

世の中い〜へ〜れ拾ゑ例ゑし　有言

仏ゑ也ゑ月し俳の歩脱の　家月

乙ゑ芋ゑ内仏ゑ例ゑ脱ゑ　ゑ之

拾載ゑ芋ゑ拾ゑ芋ゑ　有竹

名源

風や行とおもふ海の上　李洲

物思ふ人やり船と川の水も流　雪柳

己が笠よ借れの移り香の邪　小蟹

飯の香や京都の京の浮ふ　青々

京と咲く白木蓮の葉の中葉小　梅美

鶴京の笠も笠の数を多　むつ

洗濯く梅雨も殺や水月雨　雪香

雲も消えるれの雲を雲　字月

雪の雲雲も雲の雲田多　如毛

深竹や流の河月ちて咲水　鹿紅

降帆の切帆よ中降る森うれ　里山

雲紅北京麻雲雲紙帆風　釘林